

## 特別講演 2

# 「FD の病態とエビデンスに基づく治療法」

川崎医科大学 内科学食道・胃腸科 教授

春間 賢 先生

FD とは、一般臨床でこれまで用いられてきた症状のある慢性胃炎を意味する。

胃炎はもともと病理組織学的診断名であるが、日常診療で広義に用いられている。最近、H pylori が組織学的胃炎の原因であることが明らかとなり、消化性潰瘍や癌などの器質的疾患は認めないが上部消化器症状を訴えるものを Functional dyspepsia (FD)と呼ぶようになった。

FD の成因については胃酸分泌の異常（亢進あるいは低下）、胃十二指腸運動機能の異常、胃や小腸の内臓知覚の異常、H pylori などの細菌やウイルス感染による胃粘膜の炎症など多くの因子が考えられている。また、ストレスなど心因的要因も FD の成因となりうる。最近の知見では、胃酸が症状の発現に関与していることも指摘されている。

治療にあたって最も重要なことは、患者の訴えやこれまでの診断と治療経過を十分に聞き、器質的疾患がなくとも症状が出ることを医師、患者とも十分に理解することである。FD の治療薬としては、胃酸分泌抑制薬、消化管運動機能調節薬、抗不安薬などがエビデンスのある薬剤として使用されている。